

# 地域まるごとミュージアム 「キニナルスキニナルプロジェクト」 —異分野との連携による新たな来館者の獲得—

静岡科学館る・く・る 広報普及担当 エデュケーター・主事 山梨歩美

## 1. はじめに

静岡科学館を運営する公益財団法人静岡市文化振興財団は様々な分野の文化施設を運営管理しており、その特性を活かして、横断的事業展開「キニナルスキニナルプロジェクト」を実施している。昨年度は「静岡の文化を知る・楽しむ・創る」をテーマに様々なジャンルのしずおか文化に横断的に関わる事業を展開した。施設同士の連携事業の実施や相互広報により、新たな来館者層の獲得、事業の質の向上等の成果が生まれている。

## 2. キニナルスキニナルプロジェクトについて

### 1) 実施団体について

公益財団法人静岡市文化振興財団は、科学、演劇・舞踏、美術、音楽、生涯学習など、あらゆるジャンルの文化を総合的に振興し、市民が各種文化にふれる環境を整備するとともに、市民自身による文化創作活動を支援することで、静岡文化の創造、継承、発信に寄与することを目的として設立された。1994(平成6)年7月の設立以降、静岡市が設置する文化・教育施設の管理と各種事業を行い、2003年度の地方自治法の改正により指定管理制度が導入されたのちも各種文化の活動拠点を確保すべく、文化ホール、音楽堂、美術館、科学館等の文化施設、生涯学習センターの管理者として各施設の運営管理を行ってきた。

### 2) キニナルスキニナルプロジェクト発足の経緯

2014年に設立20周年を迎えるのを機に、当財団が指定管理する各施設が協力し合い、科学、演劇・舞踏、美術、音楽、生涯学習と多様な分野を横断し、未来のしずおか文化の発展につなげるべく、20周年記念事業「キニナルスキニナルプロジェクト」を1年間にわたって展開した。本事業を通し「市民とともに創る」という視点で、地域の自然や文化施設等の地域資源をつなぎ、地域を丸ごと総合博物館化し、市民とともに新たな文化活動の振興をめざした。その目的は以下の3点である。

①静岡の文化を知る…静岡に培われ、育てられた文化・芸術を紹介し、市民のしずおか文化

に関する興味・関心を高め、理解を深める。(⇒キニナル)

②静岡の文化を楽しむ…静岡文化を体験する機会を提供することで、市民の静岡文化への愛着を深め自発的な文化活動を促す。(⇒スキニナル)

③静岡の文化を創る…市民による静岡の文化・芸術に関する研究や普及活動を広く一般に紹介し、またその活動の環境を整備することで、市民による文化活動の活性化を図る。

さらに前述の3つの目的を達成するため、以下の4つの指針を定めた。

- ・当財団が積み上げてきたノウハウと文化資源、とくに文化を創り支えてきた人を事業の主役として活用する。
- ・各文化・生涯学習施設の専門性を活用し、施設間の連携事業を強化するとともに、外部の関連文化施設や市民団体等との交流・連携を推進することで、より質の高い事業をめざす。
- ・著名人の招聘に頼った事業ではなく、個々の事業を市民の自発的な学習意欲を高める生涯学習的手法を用いた市民参加型事業として展開していく。
- ・一過性の事業で終わらないよう、終了後も持続性をもった事業として地域で展開し、定着させていく。

### 3) 具体的な実施内容

本事業は、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館、静岡音楽館A O I、静岡市民文化会館、静岡市生涯学習センターの市内拠点施設の主幹事業とそれに関連した連携事業によって構成されている。以下の5つの「キニナル」しずおか文化を、科学・美術・音楽・演劇・舞踏・生涯学習などさまざまな視点から紹介した。

- ① 静岡の自然がキニナル
- ② 静岡の美術と歴史がキニナル
- ③ 静岡の音楽がキニナル
- ④ 静岡のダンスがキニナル
- ⑤ 静岡人の生き方がキニナル



5つの視点の中から、静岡科学館が関わった事業を抜粋して紹介する。

①は静岡科学館る・く・るを軸に行う「しずおか自然体験ミュージアム」とその関連事業で構成される。静岡県内には、富士山、南アルプスなどの山々や一級河川、駿河湾など、深海から高山までの大きな標高差



▲しずおか自然体験ミュージアムの様子

をもつ多様な地形に育まれた自然が存在する。その静岡県内の山・森・川・温泉・農産物など自然の魅力を掘り起こし、多様な自然を「みて・きいて・さわって・おいしく」楽しめる企画展を実施した。五感を通して静岡の豊かで多様な自然を学ぶ企画展は、多様な自然やそこで生まれた人々の生活・文化の豊かさを実感し環境へのかかわりを考える機会となった。

「しずおか自然体験ミュージアム」の関連事業「自然観察と竹スプーンづくり～静岡の竹と漆を考える～」は、静岡科学館と静岡市美術館が連携して開催した。材料になる竹の採取から始まり、スプーンの切り出し、静岡の伝統工芸である漆塗り加工の手順を経ながら竹細工に対する理解を深めた。科学館・美術館の連携により、両分野の専門の見地から静岡の自然と文化を紹介し、地元について考える機会を与えることができた。また、科学・美術のいずれかへの興味を持った市民へ、もう一方の分野や施設を紹介するきっかけとなった。



静岡科学館と静岡市生涯学習センターが連携して開催した「安倍川流域まち歩きマップ作り」では、市民がそれぞれの地域の自然や歴史などの魅力をまとめた地図作りに取り組んだ。自然観察会等で蓄積した科学館の情報・ノウハウを活かしつつ、地域に密着した生涯学習センターを拠点にすることで、地域の暮らしに根差した科学普及を行うことができた。完成した地図は「しずおか自然体験ミュージアム」と各生涯学習センターで展示・配布したほか、地図の作成者らが実際に案内役となって地域の魅力を紹介するウォーキングを開催。地域の魅力を自身で再発見し、地域に密着した情報として他者に伝えるという、市民自らが文化の発信者となる手法を確立した。

③は静岡音楽館A O Iが開催した「子どものためのコンサート 音楽とおはなし《動物の謝肉祭》」とその関連事業で構成される。静岡科学館では、同コンサートに合わせてパネル展示とガレージトークで楽曲に登場する動物を紹介した。ガレージトークでは音楽館学芸員の楽曲解説を軸に、動物学者が動物の生態や行動などの紹介を加え、曲中で表現されているカッコウの鳴き声と実際の鳴き声を比較するなどして、音楽と科学の両面から興味関心を喚起した。ガレージトークへの参加をきっかけにコンサートへ足を運んだ人もおり、施設間の回遊を促すきっかけもなった。



このほかに、前述の5つの視点にかかわる講演会を各施設で催し、会期・会場の異なる事

業群を貫く「講演会シリーズ」として一体感をもたせた。各視点にさまざまな施設が連携することで、科学×美術、音楽×美術など、分野を超えた連携企画が生まれた。

#### 4) 広報展開

本事業の企画運営を行う上で、各施設の職員で構成されるワーキンググループを結成した。広報に特化したワーキンググループも結成され、それぞれの施設で行う事業を一連のプロジェクトとして一体感をもたせること、それによる当財団のブランドイメージの向上を広報活動の目標とした。

まず、本事業を「キニナルスキニナルプロジェクト」と命名してロゴを作成し、関連事業の広報媒体すべてに掲載した。また、事業一覧を記したリーフレット、専用のウェブサイト、Facebook ページを作成し、プロジェクト名とロゴの浸透を目指した。

また、専属のライターが準備段階から各事業取材し、そのレポートをサイトや冊子などへ掲載した。これにより、市民にわかりやすく取り組みを伝えることができ、当財団のイメージアップに貢献した。



▲プロジェクトのロゴ  
段々と盛り上がる静岡への  
想いを、富士山と駿河湾の  
波に見立てた。

### 3. 成果と反響

本事業の成果として、以下のことが挙げられる。

#### 1) 異分野との連携による事業成果

専門性を有する科学館・美術館・音楽館・文化会館の特性を活かしつつ、生涯学習の拠点と連携して事業を実施することで、市民が気軽に質の高い科学や芸術などにふれる機会を創出した。しずおか文化の形成と市民への定着、さらに担い手の育成に寄与することができた。

また各施設の利用者やその分野の関心層へ別分野の告知を行うことにより、従来の層以外の利用者の獲得が可能となった。参加者が集まりにくい事業の窓口を他施設に変えることで募集状況が改善した例もあった。また、複数施設で関連事業や連続事業を行うことにより、施設間の回遊を促した。

#### 2) 連携による人的交流

20周年記念という大きな目標に向け、当財団の職員総出で事業を展開した。施設を越えて職員が企画運営することにより、互いのノウハウを共有したり、財団全体の人的資源を自館の運営に活用していく方法を学ぶことができた。

### 3) 外部評価

静岡市から指定管理を受けて施設運営を行っている当財団にとって、市民はもちろん、市そのものへのアピールも重要な戦略といえる。本事業は市民からの評価を具体的な声として確認し、今後の事業展開のあり方を考える貴重な機会となった。また静岡市からも「複数の施設を指定管理していることを強みとして活かしている」などと評価を受けている。

## 4. 今後の展開

「キニナルスキニナルプロジェクト」は財団 20 周年記念事業として始まり、本事業を通して文化事業に興味のある層に「面白いことをやっている」という事を伝えることはできた。しかし、それ以外の層に遡及するには一年と言う期間は短い。そこで、このプロジェクトを 2017 年度まで継続して実施することが決定した。

2 年目となる 2015 年度は「次世代」をテーマに、次の世代に伝えたい文化や、その担い手を育てる事業約 40 本を展開している。さらに 2016 年度はテーマを「人材育成」に絞り、しずおか文化の担い手の育成に注力する予定である。

プロジェクト名の「キニナルスキニナル」には、しずおか文化を知って楽しんでもらいたいという思いが込められているが、こちらから与えるだけの内容では文化の醸成にはつながらない。本事業の最終目標は、「キニナル」→「スキニナル」の先にある、「市民自身が文化の担い手となる」ことである。「次世代を担う人材の育成」を大きな目標とし、魅力あるしずおか文化をつくり出す“人”のためのプロジェクトとして引き続き組織全体で取り組んでいきたい。



▲ 2015 年度のリフレット

